

ドイツ・テューリンゲン州オールドルフ市長のホップさんからいただいた冊子は、26枚の写真で構成されています。この冊子はオールドルフ市に生まれたキューピーが100歳になったことを記念して、マンフレッド・スタンド文化観光局長らによって編集されました。



マンフレッド局長は

『CANON F1 をいつも胸に下げておられる人で、シャッターチャンス絶対に逃さないカメラマン』のようにお見受けいたしました。



キューピーの原作者ローズ・オニールがドイツに渡り最初に訪れたのは、オールドルフ市のケストナー社でした。ケストナー社は人形製作で一流の企業でした。今ではケストナー社の跡地は住宅地になっていました。

ローズは、最初のうちドイツの職人たちが思うように動いてくれないためかなり苦勞をしたようです。

当時のドイツでは高級なフランス人形の首をビスクで焼くケースが多く（衣装はフランスの職人が作り）、人形に対してある種のプライドを持っており、キューピーをあまり重視しようとしなかったからです。

しかし、ある時ローズが職人たちを集め

「この人形は皆さんには多少風変わりに見えるかもしれませんが、私はこれを本当は貧しい子らに贈り、その子らに愛と幸せの夢をみさせたいのです。ですからできるだけ美しく、丁寧に、立派なものに仕上げてください」

と訴えたところ、職人たちは感動し、それから気を入れて製作するようになった、というエピソードが伝えられています。



左の写真はキューピーのアッセンブリ工程、右はペインター達によるキューピーの色塗りです(日本では彩色と言っています)。



ドイツでは労働環境の良い職場で、職人たちが誇りをもって仕事をしている情景が臉に浮かんできます。

こんな昔のドイツのキューピー工場の写真を見ていると、この写真の時代から 10 年後の日本で書かれた「林芙美子著・放浪記」や「豊田正子著・彩色屋」を思い出します。

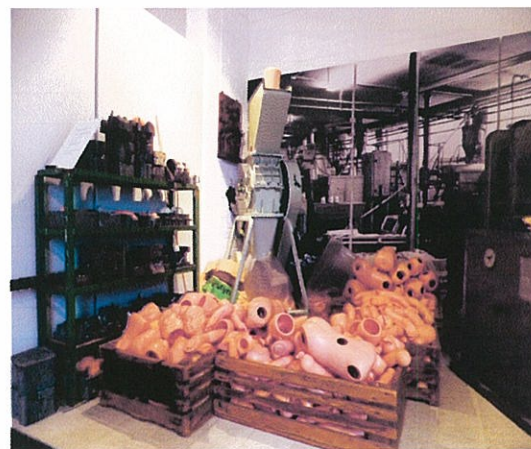
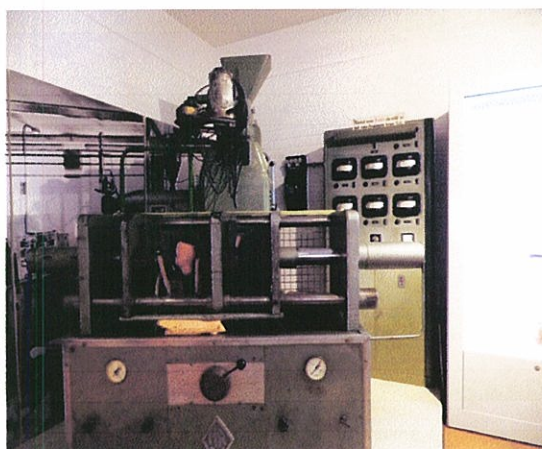
劣悪な作業環境のキューピー加工場での女工哀史が綴ってあります。映画にもなりました。セルロイドハウス横浜館にこのビデオと本がありますから、興味をお持ち方がご覧になれば彼我の違いが良く分るのではないかと考えました。

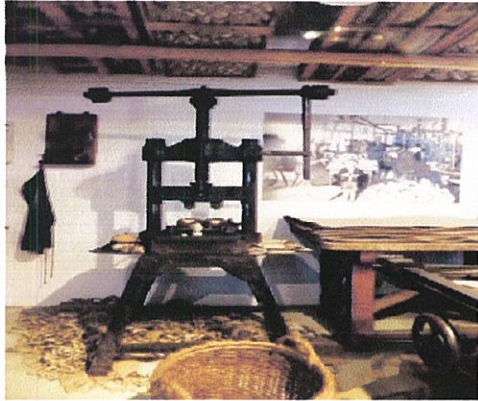
オールドルフ市からバスで地方道を約 2 時間、テューリンゲンの森林盆地を越えた所に、ドイツ玩具工業博物館(チューリンゲン州ノイシュタット町)がありました。館内での写真撮影が自由でしたので何回もシャッターを切りました。

ここで気になったのは、ビニール加工の機械装置でした。ドイツでは既にビニール製のキューピーは用済みになったのかも、という感じがしました。



玩具工業博物館の前庭





ドイツ玩具工業博物館の裏手に休眠の4階建の大きな建物がありました。(下の写真)
この建物はカメオ社のドイツ支社ではなかろうか、という話ができました。

カメオ社は、ローズ・オニールの命でジョセフ・カラスを社長にして 1925 (大正 14) 年に創設されました。カメオ社はキューピーのロイヤリティ管理が主でしたが「CAMEO」のブランドで自らもキューピーを製作販売するようになりました。



1982(昭和 47)年にカラスが亡くなり、カメオ社からカリフォルニアのジェスコ社 (JESCO) に全権利と型枠が委譲されました。それ以降に製作されたキューピー人形の背中の刻印は「CAMEO」から「JESCO」に変わっています。

コンポジション、ビスクから出発したキューピー人形の素材に新たにセルロイドが登場したのは第 1 次世界大戦 (1914~18) 前後からです。

セルロイド製品はコストが安く、軽くてビスクのように壊れ易くありません。2,3歳の

高さから落としても大丈夫です。

ローズ・オニールがアメリカからドイツに渡ったのは 1912 年です。その 34 年前の 1878 年から、ドイツではセルロイドの生地が製造されていました。キューピー人形がセルロイドでも作られるようになったのは当然なことだったのでしょう。



♪ 青い目をした お人形は アメリカ生まれのセルロイド

1921(大正 10)年、野口雨情作詩・本居長世作曲の童謡は「アメリカで買ったお人形はドイツ生まれのセルロイド」が正しいようです。ローズ・オニールのキューピー人形の目玉はパッチリとした黒が特徴です。しかし、目が黒では童謡にならなかったのでしょうか。

キューピーの一大需要国でありながら人形化に立ち遅れたアメリカでは 1930(昭和 5)年頃まで主流はやはりコンポジション製のキューピーでした。ロイヤリティの問題もあったのではないのでしょうか。

セルロイドは、アメリカのジョン・ウイスレイ・ハイアットによって発明され、1870(明治 3)年に彼が特許権を取得しました。

世界のセルロイド製造会社の由来について、旧硝化綿工業会や大平化学薬品(株)菱川信太郎著「セルロイド工業」、等の中に書いてあります。

以下、セルロイドハウス横浜館顧問の菱川信太郎さんの文から抜粋

1871(明治 4)年、ハイアットが、**The Celluloid Manufacturing Co**,を設立。

1872(明治 5)年、ドイツ化学会社ヘキスト社の現地法人アメリカ・セラニーズ社(**Celanese Corporation Of America**) が操業して商品名を『セルロイド』と命名し市場の拡大を図った。

1875(明治 8)年、ハイアットがフランスにおいて、フランス・アメリカ社(**Cie Franco - Americaine**) を設立、セルロイド製造が始まる。

1878(明治 11)年、ドイツで、ライン・ゴム・セルロイド社(**Rheinische Gummi und Zelluoid**) が設立され、セルロイドの製造を開始。

1877(明治 10)年、セルロイド板状生地が成形用素材として日本に初輸入される。

1908(明治 41)年、兵庫県網干町に日本セルロイド人造絹糸株式会社が設立される。

* 「大澤秀行著キューピー物語・講談社」参照。

* 次稿・日本のキューピー。